

開発経済学		講義	教授 大西 一成
科目カテゴリー	国際ビジネスコースの専門 選択科目、経営・経済コー スの専門選択科目	科目ナンバリング	23202206

1. 授業のねらい・概要

開発経済学は、途上国が経済的に発展するなかで直面する貧困問題、農業問題あるいは環境問題等をその対象とする。授業ではこうした諸問題に求められる基本的な考え方を体系的に取り上げる。なぜ経済発展を成し遂げる地域とそうでない地域があるのかといった視点に立ち、「経済発展」の意義あるいは理念についても取り上げる。改めて「豊かさ」とは何かを問い直すことを授業の基本的なねらいとする。経済発展に向けた理論的な考察力を身に着けることを狙いとする。

2. 授業の進め方

各種データ、資料については OA 機器を用いて受講者とともに読み進める形式を採用する。内容的には、理論と実例を中心に紹介し、板書に基づいた自筆ノートの作成を重視した授業にしたい。授業中の質問は、大いに歓迎する。そうした質問と共に考えていく授業にしたい。

3. 授業計画

1. イントロダクション (授業の進め方, 授業内容の概説)	9. 途上国の新たな問題点 (通貨危機, 債務問題)
2. 貧困からの経済発展	10. 開発がもたらす格差問題①所得分配と国内格差
3. 開発経済における政府の役割, 民間の役割	11. 開発がもたらす格差問題①地域間格差
4. 農業社会と開発経済学① (貧困と資源制約)	12. 日本・東アジアの発展が示唆するもの
5. 農業社会と開発経済学② (資本蓄積と工業化)	13. 途上国における今後の開発について
6. 環境問題の発生① (開発と環境問題)	14. 経済発展に求められる新たな社会資本整備と技術
7. 環境問題の発生② (環境対策と COP にみる国際関係)	15. 「開発経済論」における問題点の整理と今後の見通し
8. 工業化への問題点 (労働力, 失業)	について総括する。

4. 準備学修 (予習・復習等) の具体的な内容及びそれに必要な時間

予習・復習の具体的な内容については、授業の進度に応じて適宜伝える。こうした予習・復習に必要な時間は個人差もあるので明確には設定しないが、概ね 2 時間程度を目安とする。

5. 課題 (試験やレポート等) に対するフィードバックの方法

期末試験の採点結果は要求に応じて個人的に公表する。学期中の試験、レポート等については、解説とともに返却したい。宿題については、授業冒頭で解説する。質問を募るミニッツ・ペーパーも適宜準備すると共に重視する。

6. 授業における学修の到達目標

人類が目指してきた開発と発展について、根本的に問い直す力の修得を目標としている。「豊かさ」や「合理性」あるいは「進歩」に対して自ら問い直す力の修得を目標としている。フィールドワークの糧となることも期待している。

7. 成績評価の方法・基準

授業における積極的な発言・課題提出、レポート等 (30%), 期末試験 (70%) によって評価する。

8. テキスト・参考文献

テキストは特に限定しない。授業において適宜、必要な論文、資料、データ等を配布する。参考文献は、高木保興 ((2002) 『開発経済学の新展開』(有斐閣, 2700 円+税) を挙げる。その他、

9. 受講上の留意事項

「グローバル化と国際社会 A・B」を履修済みであることが望ましい。また国際機関が発表する経済指標、経済見通し等についても重視する。

10. 「実務経験のある教員等による授業科目」の該当の有無

該当する。金融機関における実務経験を活かして指導する。

11. 卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連

上記の「科目カテゴリー」欄の記載のとおり。